

第 21 次東京都観光事業審議会（第 3 回）

日時：平成 29 年 5 月 31 日（水曜日）午前 10 時 30 分から

場所：東京都庁第一本庁舎 42 階特別会議室 A

午前 10 時 30 分開会

【坂本観光部長】

お待たせをいたしました。

定刻となりましたので、これより第 21 次東京都観光事業審議会を開会いたします。

本日は、ご多忙の中、ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

私は、事務局を務めさせていただきます、東京都産業労働局観光部長の坂本でございます。

議事に入りますまでの間、しばらくの間進行役を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

以降、恐縮ですが、着座にて続けさせていただきたいと思っております。

はじめに、配布資料の確認をさせていただきます。

お手元には、議事次第、座席表、「資料 1 審議会条例」、「資料 2 審議会委員名簿」、「資料 3 諮問文」、「資料 4 観光を取り巻く現状について」、「資料 5 『PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2017～』の概要」、「資料 6 『PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2018～』の策定について」、その他、青色の冊子がございますが、PRIME 観光プラン 2017 本文の冊子、さらにはそのポケット版、小さ目の B6 判でございます。そして、最後に「参考資料 観光を取り巻く現状（資料集）」をお配りしております。

ご確認のほどよろしく願いいたします。

続きまして、お手元にお配りをしてございます資料 2 の委員名簿に沿いまして、前回の審議会以降、新たに委員にご就任をいただきました方をご紹介させていただきます。

東京商工会議所地域振興部部長、上田裕子委員でございます。

なお、本日ご出席をいただいた皆様方に関しましては、座席表の配布をもつてかえさせていただきます。

よろしく願いいたします。

続きまして、東京都側の出席者につきまして、前回の審議会以降、人事異動がございましたので、この場をかりて改めて全員のご紹介をさせていただきます。

東京都副知事の川澄俊文でございます。

産業労働局長の藤田裕司でございます。

観光振興担当部長の浦崎秀行でございます。

企画課長の福田哲平でございます。

振興課長の吉田隆雄でございます。

受入環境課長の本澤好貞でございます。

企画調整担当課長の川口貴史でございます。

シティセールス担当課長の前田千歳でございます。

観光施策担当課長の齋藤順でございます。

受入環境担当課長の三角知恵人でございます。

事業調整担当課長の二瓶伸でございます。

最後になりますが、改めまして、私が観光部長の坂本雅彦でございます。よろしく願いいたします。

それでは、以後の議事進行は安島会長にお願いをしたいと思います。それでは、よろしく願いいたします。

【安島会長】

それでは、これより私が進行を務めさせていただきます。

まず初めに川澄副知事から一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

【川澄副知事】

東京都副知事の川澄でございます。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

東京都では、昨年度に観光産業の振興に向けた実行プランの作成を進めまして、その「中間のまとめ」について、本審議会から貴重なご意見を頂戴いたしました。

1月にはプランを「PRIME 観光都市・東京」という題名をつけて公表することができたことは、委員の皆様のお力添えによるものであり、改めて御礼を申し上げます。

その後の東京の観光を取り巻く環境についてでございますけれども、先日、都が取りまとめた調査によれば、海外からの旅行者の数は過去最高の1,310万人に達する一方、観光による消費の額は前年よりも減少するなど、新しい変化が生じております。

こうした状況に適切に対応するため、今年度、観光の実行プランの改定を行い、より効果の高い施策を盛り込むことを予定しております。

このため、今回のプランの改定に当たり、ここにお集まりの地域を代表する皆様や観光関連の団体、企業の皆様の貴重なご意見やご指摘を賜うことができればと考えております。

具体的には今年の11月に中間のまとめを取りまとめたいと考えておりますが、それ以降、最終的に確定したものをつくるまでの間に、この審議会コメントを頂戴できればというふうに思っております。

本日は、今申し上げましたことを審議会に諮問させていただくために開催を

させていただきました。

皆様におかれましては、活発なご審議を賜りまして、貴重なご意見をお聞かせいただければ幸いです。

結びに当たりまして、今後とも東京の観光の振興とその充実の強化のため、ご指導賜りますよう心からお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

【安島会長】

どうもありがとうございました。

それでは、議事に入る前に、本審議会の公開について確認をさせていただきます。これまで同様、本審議会を公開とさせていただくことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

異議がないようですので、本審議会は公開といたします。

次に、議事録署名人の指名をいたしたいと思います。

私のほかに上田委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」)

それでは、上田委員、よろしく願いいたします。

では、これより議事に入りたいと思います。本日の議事について、事務局から説明をお願いします。

【坂本観光部長】

本日の議事は、東京都観光事業審議会への諮問についてでございます。本日は川澄副知事が知事にかわり諮問をいたします。

それでは副知事、よろしく願いいたします。

【川澄副知事】

(諮問文手交)

【坂本観光部長】

なお、大変恐縮でございますが、副知事は所用のため、これで退席をさせていただきます。よろしく願いいたします。

【安島会長】

それでは、事務局より改めて諮問の趣旨をご説明いただきまして、その後、ごく簡単に配布資料の説明をお願いしたいと思います。

【坂本観光部長】

かしこまりました。

今回諮問をいたしました内容につきましては、審議会から新しくつくるPRIME観光プランの2018、こちらのほうに意見具申を受けるというような内容で諮問をお願いしたところでございます。

諮問の内容に関しましては、資料の3をごらんいただければと思いますが、趣旨のところに書いてございますように、本年1月に「PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2017～」を策定いたしまして、これに基づきまして29年度はさまざまな施策を展開しているところでございます。

しかし、そうした中で、先ほど副知事のほうからも説明がございました、ご挨拶の中にもありましたが、外国人の旅行者の数、こちらが過去最高となる一方で、消費の額がトータルで言いますと、減少に転ずるといような状況が早々と出てきております。

このような環境の変化に、新しい要素がどんどん加わって、それに対して都政としても、速やかに対応していく必要性が今、出ているというところでございます。

さらに、こうした中で観光産業の経営の力の底上げ、さらには国際的な旅行者誘致の競争の激化、そういう状況も加わっておりまして、さらに東京を訪れる旅行者の方に良質なサービスを提供する上で、不可欠なICTの技術、こういったものをどのように観光の分野で活用をしていくのか、そして今、国のほうでも法案の審議がなされておりますが、いわゆる民泊を含めました宿泊のあり方、受け入れ環境の向上、こういった部分も含めて重要なテーマがかなり出てきているという状況でございます。

このため、都といたしましては、現在のプランを改定いたしまして、新しく2018年版のプランの策定を行うこととしたいと考えているところでございます。

こうしたプランを策定するに当たりましては、やはり観光産業の担い手でございます地域社会、さらには観光関連団体の皆様方の意見、さらにはご要望を十分に反映して、民間と行政が力を合わせて、都としての施策の展開をより一層戦略性のある効果の高いものにしていくと、こういうことが非常に喫緊の課題となっているという中で、審議会からご意見を、新しくつくるプランについて頂戴できればという内容でございます。

引き続きまして、資料4、5、6という順番に沿いまして、これからの議論の前提となります観光を取り巻く現状、さらには現在、計上しております事業の方向性、そして今回の新しいプランづくりのロードマップ、これをご説明したいと思っております。

まず資料4でございますが、今までも縷々申し上げてございますが、観光を取り巻く現状ということで、外国人の旅行者の数、これは日本全体で見ましても、この10年間で約3倍という規模で増加をみておりまして、2016年も過去最高の2,404万人というレベルに達しているところでございます。

この内訳を見ますと、資料の左下になりますが、ほぼ4分の3を超えるような水準で、中国、韓国、台湾、そして香港、さらに東南アジアという部分を加

えますと、もはやアジアというくくりでは、85%の方が、そういうエリアから日本を訪れているという状況がございます。

そうした中で、その右側に移りますが、訪都旅行者数の推移につきましては、10年間で約2.7倍の増加を示しております。国内の旅行者だけを取り出しましても、近年はほぼ5億人のレベルで推移を続けているという現状がございます。

資料4の裏面に移りまして、こちらのほうでは、消費の推移についてご説明をしているところでございます。

消費につきましては、先ほどもちょっと触れさせていただいたんですけれども、訪日の外国人旅行者による消費というものは過去最高で、約3.7兆円を記録しているのですが、訪都のベースで見ますと2016年は、前年に比べて2.4%の減少に転じました。

さらには、日本人のベースでみた場合の訪都旅行者、こちらのほうは、さらに落ち込みが若干出ておまして、約5.1%の減少ということで、4兆6,000億円という水準となっているところでございます。

こうした状況に対して、やはり経営の面から、これからどのような形で観光事業が取り組んでいかなければいけないのかというのは、大きな課題になっていくと考えているところでございます。

そして、最後に宿泊需給の状況というのを掲げさせていただいております。都内の延べ宿泊者数の全体、こちらのほうは、実は減少といった形なんですけど、外国人の宿泊者数の延べの数でございますが、こちらは2.8%の増加ということで、約1,806万人泊というような数字が出てきております。

そうした中で、宿泊場所であるところのホテルの稼働率、こちらのほうは全体では8割というレベルにはなっているんですが、旅館を取り上げますと、まだ6割稼働という状況が続いているのが、グラフから見て取れると思います。

こうした状況を踏まえまして、この29年度の観光施策を盛り込んであるのが「PRIME 観光都市・東京」の2017年版でございまして、こちらが資料5でございます。

こちらのほうは、いろいろな機会にご説明をさせていただいておりますので、裏面の施策のほうをごらんいただければと思いますが、6つのテーマに沿いまして、消費の拡大をしっかりと取り込むための観光経営に向けたさまざまな施策、さらには良質な観光資源を観光客に提供するための取り組み、そして、海外にPRを行うためのプロモーション活動の新しい展開、そして国際競争が激しくなっているMICE誘致の諸施策、さらには外国人旅行者が快適に都内を観光できるような受け入れ環境の向上、そして最後に日本各地と東京が連携した観光振興、こういったウイングを広げた施策を掲げさせていただいているところでございます。

続きまして、資料 6 をごらんいただきたいと思います。A4 の横の資料でございますけれども、こちらのほうが、正式名が「PRIME 観光都市・東京」で、「東京都観光産業振興実行プラン」、今度は 2018 という形になります。

こちらの策定ということでございますが、策定の背景については、今まで申し上げてきたように環境の変化に迅速かつ的確な対応を図ることと、戦略性を持って総合的な施策展開を図るということでございます。

したがいまして、現在ございます 2017 年度版のプランの内容を更新するという中で今後の取り組みの方向性ですとか、改めて平成 30 年度の施策、こういったものを観光面からどうやってつくり上げてまとめていくのかということが、このプランの中に出てくることになろうと思います。

そういうものをつくるに当たっての今後の予定が下に一列で書いてございますが、現在、「東京の観光振興を考える有識者会議」を開いておりまして、現在 1 回 5 月に開催しました。

その中で、新しい 2018 年度版のプランの検討が進んでございますが、そういう議論を積み重ねた上で、11 月には中間のまとめという形で案のほうを 1 回皆様方にごらんいただいて、これについて観光事業審議会としての意見、こちらのほうをお寄せいただいた上で、その内容を反映して年明けの 1 月に最終版という形で取りまとめができればと考えてございます。

なお、意見具申を頂戴することになっておりますが、通常答申書という形ではなくて、それぞれの意見を皆様方から改めてこの審議会の場で個々に頂戴するという体裁でやらせていただければと考えてございますので、よろしくお願いいたします。

私からの資料の説明については以上でございます。

【安島会長】

どうもありがとうございました。

ただいま事務局からご説明がありましたとおり、今回の諮問は今後、都が策定する「PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2018～」、これから策定する 2018 に対しまして審議会に意見具申を求める内容になっております。

プランは 11 月に中間のまとめ、1 月に最終版を公表する予定になっておりますので、まさにこれからつくろうというときに、ご意見をまず何かございましたら頂戴をしたいということでございます。

本日は、委員の皆様から、日ごろ感じている東京の観光振興への思いや観光の実行プランに反映させてほしい事項などがございましたらお話をいただきたいと思います。

それでは、どなたかご意見がございましたらお願いします。

【上田委員】

東京商工会議所の上田でございます。

ただいまのご諮問とご説明を頂戴いたしまして、一言発言させていただきます。

観光は産業の裾野が非常に広くございまして、地域の持続的な経済成長を支える重要な役割を果たしていると認識しております。このため、東京商工会議所といたしましても、特に力を入れている分野でございます。観光実行プラン2017には私ども東商がかねてからご主張申し上げてまいりました観光産業への支援や地域観光資源の開発、旅行者の受け入れ環境の整備などの施策がしっかりと盛り込まれておりますほか、観光振興の数値目標につきまして、旅行者数だけではなく、新たに消費額や外国人リピーター数を定めたということを変評価させていただいております。

先ほど事務局のほうからご説明いただきましたけれども、観光をめぐる状況、急速に変化しております。2018年度のプラン策定に当たりましては、こうした変化に対応しながら、東京の観光振興を着実に前に進める効果的な施策を盛り込んでいただきたいと考えております。観光振興に向けましては、行政や民間事業者、地域の団体などの関係主体が総合力を発揮して取り組むことが何よりも重要でございますので、東京商工会議所といたしましても、本日ここにお集まりの皆様としっかりと連携しながら取り組みを進めてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

【安島会長】

どうもありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。お願いします。

【山本委員】

私はMICE誘致の観点から、一言お話しさせていただきます。

今、東京都のMICEの施設という意味では、ホテル等はかなり充実してきてると考えます。ただMICEのMとI、国際会議もそうですが、企業が東京でミーティングをしたいというときに必ず「ユニークベニュー」を使いたいというのが一つ条件のようになってきています。

今回東京都がユニークベニューのパンフレットをつくられました。都の施設が8施設入っておりますし、民間施設も含まれ、2種類作られたパンフレットは見た目も良く素晴らしいと思います。今後ユニークベニュー利用をさらに前に進めていくためにも2018年にはその施設と主催者側、利用者側の間に立ってコーディネートするような、ワンストップ窓口ができれば、より使いやすくなるのではないのでしょうか。

今の施設は、例えば都の施設であれば、生活文化局が管理されていたり、建設局が管理されていたりと管理者がバラバラなんですね。また、その実際施設

で働かれている方々もユニークベニューでのレセプションをご覧になったことや、出席された経験がないと思います。そういった中でグローバル企業からの申し出があった時に、一番求められるのがスピードです。対応のスピード、そして英語力。それらにおそらく対応するのが、現状はかなり難しい状態だと推測します。ですから、ワンストップ窓口があって、そこに集中してリクエストが入ってくることによって、スピードを持ってどんどん対応できますから、東京での企業ミーティングの可能性が高まっていくのではないかと考えます。ぜひ2018年のプランにそういったことを盛り込んでいただければと思います。

あと、企業側への支援ですね。例えばそれが資金の援助だったりするのか、支援金だったりするのかわかりませんが、もしもそれを実行したときには、企業名は出さなくてもいいので、必ず企業から例えば写真を提示していただくとか、レイアウトを提出してもらい、ユニークベニューの事例を作ってほしいと期待します

以上です。

【安島会長】

ありがとうございます。ユニークベニューがだんだん増えているようで、今後のMICEを開くときにも、大きな効果があると思っております。

ほかに何か。どうぞ。

【齊藤委員】

旅館組合の齊藤でございます。

まず今いろいろ議論がございまして、民泊に関しましては、ほぼ来月に法案が通ります。それから、同時に旅館業法も変わってまいりますので、今度は旅館とホテルが一緒になりますので、統計のとり方がちょっと違って来るかもしれませんので、その辺の配慮をいただきたいなと思っております。

それから、30年度のプランを練るということでございますけれども、これも今国会で審議中でございますけれども、30年度というのはいわゆる天皇陛下の退位がございまして、来年は東京というのはい完全に皇室年度になってまいります。

一般参賀の1月2日、12月23日は多分最後になっちゃうかもしれないし、それから11月3日というのは明治建国150年というのが出てまいります。その辺も入れていただければありがたいと思います。

以上です。

【安島会長】

ありがとうございます。

いつもオリ・パラに目を奪われてしまいますけれども、別の視点からも重要なことがあるということで、そういう点もしっかりと考えていく必要があると思っております。どうもありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。どうぞ中澤委員、お願いします。

【中澤委員】

ありがとうございます。バリアフリーカンパニー中澤です。

私は会社の名前のおり、バリアフリー専門なので、その話をしていきたいと思うのですが、今、実はちょうどオリンピック・パラリンピックについてもいろんな疑問、いろんな団体から問い合わせを受けることが多くなっています。

やはり観光の部分で考えていくと、公共交通機関については恐らく今計画どおり、例えばバスとかタクシーとか、そういうものの充実が順番に今進んでいるところだと思います。それがいわゆるアクセシブル・ツーリズムに、東京都が考えている、そこに繋がっていくと思うのですが、一番問題は、ホテルなのですね、実は。今稼働率もめちゃくちゃ高いのですが、東京も含めて、神奈川県とか周りの県も同じなのですが、実は、オリ・パラやるにしても、選手だけじゃなくて、観戦に来る方も増えていますよね。しかしアクセシブルなホテルが全然ない。

実はこの間、国際パラリンピック連盟の方が発言された中にもあったように、実は全然足りないという問題がありまして、これについては、どう進めていくのかということところが余り見えてないのですね。

実際、部屋とかホテルについて改修するにしても、今日の明日なんてできるわけではないので、もう実はぎりぎり、時間も間に合わないかなというところでもあるのですが、今からでも、2018年でも改善することによって環境が変わるということ、まだまだあると思うのです。

このあたりを、具体的な施策を何とか2018年度でも盛り込んでいけないかなと思っているのですね。やっぱり観光客がこれだけ大幅に増えている中で、日本を訪れる観光客の中でも多様な方が参加されるようになってきて、いわゆる高齢者や障害者も含めてどんどん増えているのですね。このあたり、オリ・パラというものも、うまくそのムーブメントを生かしながら、観光として東京都がどんどん受け入れられるような環境をつくっていかないと、やはりこれからのツーリズム、アクセシブル・ツーリズムについて、世界にアピールすることができなくなると思うのですね。

やっぱり注目されるチャンスだと思いますので、このあたり、具体的な施策をもう一回、改めて検討していただいたほうがいいのではないかなと、そんなふうに思いました。

以上です。

【安島会長】

ありがとうございました。

交通機関よりも、ホテルのほうのバリアフリーが少しまだ足りないというこ

とですね。宿泊施設が随分少なく、足りないということが指摘されております。今、いろいろなところで、建設も進んでいると思いますが、この機会にぜひホテルのほうのバリアフリーというものを十分対応を進めていただきたいと思います。とっております。

【武内委員】

日本コンベンション協会の武内と申します。

今、ちょうど東京都様では、オリンピック・パラリンピックとあわせてインバウンド、観光に非常に力を入れていただいているということ、私は MICE が専門になるのですが、観光の重要な一角を担うということで、MICE に関していろんな企画を立てていただいております、こういった機会は非常にチャンスだなと思っております。

小池知事も、ユニークベニューの開放にご尽力いただいております、先ほど山本様からもありましたけれども、大変ありがたく感じるとともに、そういった広がりを感じております。

東京都様の MICE 連携推進協議会にも出させていただきます、官民連携の活動が幅広く進んでいくことはありがたいことではあります、MICE のところで話題になりましたように、まだ MICE という言葉自体を含め認知度が低いと感じております。我々業界も、どういうふうな人を集めてくるのかという課題があります。その中で、観光インバウンドが注目されているところで、ぜひ MICE 自体の認知度を上げたいと考えております。

それには、やはりオリンピック・パラリンピック、観光含めて、東京都様の活動というのが非常に力のあるところでもありますので、小池知事の PR 力を含めて、ぜひそういった言葉や、その内容、活動自体も、より発信できれば、というふうに思っております。

MICE といいますと、実は観光の中に含まれるんですけれども、MICE 自体はある種ソフトの中の箱といいますか、ハードではないんですけれども、要は MICE によって何でもできるという、そういう仕組みだと思っております。ということは、IoT もテーマになれば観光もちろんテーマになったりというふうに、あらゆる産業、テーマに関する MICE が開かれるということになります。シティセールスとあわせて、都庁内でも、東京の産業を何らか発信するのに MICE を使う。それから海外での誘致を含めた産業のアピールに対して MICE を使うというふうに、観光産業の中の MICE ではあります、全方位といいますか、産業全体で MICE の活用をうたっていただいたり、それを利用いただくという発想をぜひ都庁内連携によって発信していただければなというふうに思っております。

観光庁様の調査で、MICE による来日外国人の消費額に関して 1 人当たりで計算しますと、非常に大きいという結果を出していただきました。今年につい

では、昨年のCに続き、M・I・Eについても調査いただくと聞いておりました、大変期待をしております。今、消費額が少し落ちたというお話もありましたので、ぜひMICEを全分野で活用していただきまして、消費額を上げられるようにするとともに、我々にとってはMICEの発信力をぜひアップしたいというふうに考えております。

【安島会長】

ありがとうございました。大変MICEも幅広いです。観光も幅広いので、かなり重なっているところが多いと思いますが、ぜひMICEからも発信力を生かして、観光のみならずほかの面でも東京を売り出していきたいと思います。

ほかに何かございますでしょうか。はい、お願いします。

【山崎委員】

江東区長の山崎でございます。

前回、お話ししました民泊の問題なんですが、少し書いていただいてありがとうございました。法律がそろそろ通るということで、今、区長会としては、やはり現場の区市町村に権限を与えるべきだということ、都のほうにお願い、要望をしているんです。

都と区市町村との協議というところになろうと思いますが、民泊、今数字、データを見ますと宿泊施設が不足していると、しかしながら、その中で旅館は60%程度しか稼働率がいてないというような状況、簡易宿泊所ではもっと低いわけですね。そういった活用をもう少し考えるべきだというふうに思っております。

そのためには、じゃあ何をするのかというのは、それは業界の皆さんのご努力、あるいはまた東京都のバックアップ、こうしたことも必要なんだろうけれども、いずれにしても、泊まる場所がないから民泊を増やせということで、単純に考えられては、それぞれの区によっては事情が違います。住宅地中心の江東区のようなところでは、住民の方々はやはり民泊に対しては非常に警戒感が強くて、また飛行場が近い大田区さんあたりは民泊は進めたいというようなご意向もあるようですし、それぞれの区市町村によって事情が違うので、ぜひこの点は東京都にはお願いをして、しっかりと区の意見、区市町村の意見をしっかりと聞いて、それぞれの区の独自性というものも今後検討していただきたいと、そうした意味で、宿泊施設が不足しているから民泊、という単純なものではないというふうに思います。

我々、区市町村長というのは、国の経済のことも当然それは考えなきゃいけないことですが、何といたっても地域の住民の生命や財産を守ることがまず第一でありますので、それが脅かされるようなことになることについては、やはりかなり多くの区長は抵抗感を持っている。特に、日本は衛生的には非常にすぐれた国になった。いろんな外国人が来て、民泊でフリーになってしまっ

た、そのことによっていろいろな病原菌などが蔓延してしまうような、それはすぐにどうこうはありませんが、30年、50年後に、日本の衛生というか、衛生観念も含めて乱れてしまつては、やはり国家として私はよろしくないというふうに思いますので、特にこの民泊については、慎重にこのプランの中でもどうあらわすか、非常に難しいと思うんですけれども、やはり地元の区市町村の意向というものは、ぜひ十分に組み入れて、考え方もそういう考え方で進んでいただきたいな。

泊まるところが足りないから民泊を進めるという一方的なことでは、そう簡単にはいきませんよということが区長会の考え方でございますので、その点は念頭に入れて、いろいろプランを作成していただきたいというふうに思っております。

【安島会長】

ありがとうございました。民泊はいろいろところで検討が進んでおりますが、やはり慎重にご検討いただきたいと思います。

ほかにございますでしょうか。はい、どうぞ。

【秋保委員】

全日空の秋保と申します。

私のほうから、気がついた点をお話ししたいと思います。

我々は時々海外で観光関係の会合に出る機会があります。世界の観光業界というのは欧米の方々が中心になって運営されているのが通例ですが、そこでは最近、持続可能な観光とは何かということがずっと話題になっています。

そのようなことから、都市間の観光誘致競争にしても、いかに各都市が持続可能な観光を目指しているかということが、重要な要素の一つになっています。そのような状況を念頭に、宿泊日数が多い欧米の観光客を引きつけるためにも、東京都は持続可能な観光を目指しているということ、もう少し色濃く出されたら、欧米にアピールする部分があるのではないかと考えております。

【安島会長】

ありがとうございました。持続可能というのは、新しいキーワードだと思いますので、またお話を伺いながら、少しそういう点についても検討していただけたらと思います。ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

【蜷川委員】

日本政府観光局（JNTO）の蜷川でございます。

既にご承知のとおりだと思いますけれども、昨日、観光立国推進閣僚会議が「観光ビジョン実現プログラム2017」を発表しております。

その中で、国としてのいろんな施策が盛り込まれているわけですが、楽しい国、日本の実現というキーワードも盛り込まれております。これまで、どうし

でも日本といいますと楽しいのかどうかというのは、なかなかアピールできていなかった面もあるかと思いますが。特に、東京は非常に混んでいるというようなイメージもあったりしているので、東京に来れば非常に楽しいいろんな体験ができるんだといったような、新たな東京の魅力をしっかりアピールしていただければなというふうに思います。

国としても、先ほどもお話出ておりましたけれども、欧米とかオーストラリアからのお客様をもっとたくさん呼び込んで来ようと、特にこれまで日本への旅行に無関心だった層をいかに取り込んでいくかというような部分でも、国やJNTO がしっかり取り組んでいこうとしているところでございまして、東京都さんもぜひ欧米、あるいはオーストラリアからお客さんをもっと呼んでこようというような施策も盛り込まれていると思いますので、そのあたりもしっかり、引き続き取り組んでいただければと思います。

そういう意味では、東京で何ができるか、欧米あるいはオーストラリアの人たちが何を求めているか、どういうアクティビティとか体験をしたいかといったあたりをしっかりと調査した上で、東京に来ればこういうスポーツ的な体験ができる、あるいは文化、博物館、美術館もたくさんあると思いますので、そういった体験ができるよといったような新しい東京の魅力をしっかりアピールしていただきたいというふうに思います。

それから、日本に関心がない理由の一つに、調査をいたしますと、日本は遠いとか高いとかというイメージがあるんですけども、それに加えて、何か余り歓迎されていないんじゃないかというような、ウエルカムマインドといいますか、歓迎されていないような気がするというような意見も聞かれたりいたします。そういう意味では東京都民も含めて、海外からの方を歓迎していますよというような気持ちをしっかりアピールできるように、東京都民あるいは日本国民の意識も変えていかなきゃいけないと思いますので、オリンピック・パラリンピックも控えていると、この手前にラグビーのワールドカップもございまして。そういったタイミングをいい契機と捉えて、ぜひもっともっと外国人に来てもらおうというような意識を、都民、国民にももっと植えつけるような取り組みといったものが重要かなというふうに思います。

以上でございます。

【安島会長】

ありがとうございます。楽しい国日本、これを東京都でいいますと楽しい東京、わくわくするような東京をいかに実現していくのかという、そういうプランをぜひお願いしたいと、こちらからのご意見としてお伝えしようかなと思います。

ほかにいかがですか。はい、お願いします。

【澤山委員】

日本航空の澤山でございます。どうぞよろしく願いいたします。

先月、WEF という世界経済フォーラムで、2年に1回、旅行競争力調査というのを発表しているのですが、そちらで日本が9位から4位に上がったというふうに発表をされています。

基本的には日本の観光のレベルは非常に上がっていると思いますけれども、その中で、今回の指標からは外れてしまいましたが、前回の指標で日本が140数カ国中129位という非常に劣位にあった指標がございます。それが何かといいますと、業務渡航、出張で来られた外国人の方が、その出張期間が終わった後、さらに滞在を延長して観光に出かけていくと、こういう調査項目がございます。これが非常に日本は劣位だったということでございます。

日本を代表する都市でもある東京ですので、業務渡航の方、非常にたくさん来られると思います。ですので、私は今回のこの東京都の取り組みの中で、この業務渡航で来られた方をいかに観光に結びつけていくか。MICEを中心とした業務渡航の方は、その業務渡航期間中の消費単価はもちろん高いですので、そういった方にさらに1泊、2泊延長していただいて、観光に出かけていただく。こういったところに取り組んでいかれると、さらに消費単価の上昇、消費額の上昇というところに結びつくかなというふうに考えております。以上です。

【安島会長】

ありがとうございます。

ほかに。

はい、お願いします。

【高橋委員】

JR 東日本の高橋でございます。

若干自慢めいた話なんですけど、5月1日から当社のクルーズトレイン「TRAIN SUITE 四季島」という列車を走らせ始めました。一番安くて3泊4日、75万、最高が95万円というところに、たくさんのご応募をいただきまして、もう3月まで一杯で、最高倍率が76倍という状況になっております。

上野から出て、上野に戻ってくるというクルーズトレインなんですけれども、先だって、フランスのテレビの取材を受けまして、それは東京の魅力を紹介するという番組をつくっている中で、クルーズトレインも発車するようなプレミアムな町なんだよというのを、東京を紹介するというので、上野駅で発車風景を撮っていただいたんですけれども、そこはディレクターと話しをしていましたところ、やっぱり今までなかなか東京というところがプレミアムなもの、たくさんお金を払って体験できるものというのがやっぱりなかなかなかったんだということをおっしゃっていました。

12月にこの列車を売りに行くのに、カンヌの ILTM というラグジュアリー・

トラベル・マーケットに行ったときも、こぞって海外の旅行会社で富裕層だけ扱っている会社からすると、やっぱり日本というのは、そういうそのとんがったラスベガスとかシンガポールだったら普通にあるようなものが少ないねというのをずっと言っておられまして、私どもがそういう列車を走らせるということで、ついに東京でもそういうことができるようになったのかというご評価をいただいております。

さらに言うと、上野駅というのは東北の玄関でかなり昔からあるところですね、ちょっと綺麗にしまして、この列車を出していますので、伝統的なものをうまく使いながら新しいものをつくるという、まさに「Old meets New」みたいな、そういう感覚でやっていますよという話しをしまして、その奥の深さというところはかなりフランスの方もうけていただきました。

今回「PRIME」という言葉を使っておられますんで、やっぱりもう少しハイエンドといいですか、高い領域というところも攻めるんだという意味がもう少しあってもいいのかなと思います。

集客力は高く、良質な観光資源の開発というところで、まさにライトアップですとか水辺の活用とか、あるんですけども、それは確かにパリやニューヨークなんかでは、水辺だったり、建物のライトアップだったり、当たり前のようにやっていますんで、ナイトライフも含めて、それは東京はそのレベルに当然達するべきだと思うんですけども、同様にニューヨークやパリなんかで普通にやっておられるのは、やっぱり先ほどの業務渡航の話もありましたが、仕事が終わったあと、あるいは富裕層の方が来られたときにクローズドで体験できるものというのが、やっぱり東京にはあるはずなんですけども、なかなかそれがコンテンツになっていかないということがあると思いますので、観光資源の開発の中にまさに「PRIME」を体感できるような、若干その高いものという、ちょっと嫌味な聞こえ方なんですけども、そういうお客様にお喜びいただくという町としては日本では東京がダントツのトップだと思いますので、そういうちょっと考え方をお入れになるといいのかなと思います。

もう一つは、先ほど蜷川さんがおっしゃられたのと同じような話なんですけど、この会議等々で毎回申し上げているんですけど、このプランを実際に都民の方にどう伝えるかというところが大事でございまして、なかなかこれをその施策として発表されると、我々のような事業者には伝わるんですけども、現実にはそのお客様がおもてなしの現場として訪れる場所というのは普通のレストランだったり、普通のショッピングの買い物の、場合によっては、おもちゃ屋さんだったりするわけでありまして、その方々がこの「PRIME 観光都市・東京」をやっていく一人なんだよということが伝わらないままずっときているとですね、単純にまさに産業振興という観光産業の裾野のやや狭いところで施策が展開されるようなイメージがございまして、ぜひこれを何がしかの方法で都民の、

一般都民の皆様インフルエンサーされる仕組みというのをぜひ入れていただきたいと思います。

私ども JR 東日本で東京の現場にいるだけで 1 万人社員がいますんで、彼らがこういう「PRIME 観光都市・東京」の一員として仕事をしていると思うのと思わないのでは全く意味が違うはずなんです。

我々ただ事業者なんで、それは自分たちの社員にはできますけども、じゃ、その駅をご利用いただいている観光客と日々すれ違っている普通の通勤のお客様とかが観光客に今どういう目線を与えているかということ、多分荷物大きくて邪魔だなと思っているはずなんです。それをそうじゃないように変えるという、やっぱり運動論も大切だと思います。

さらに申し上げますと、これもいつも申し上げていますが、やっぱり学校教育の中でうまくですね、この話が、まさにこのプランの冊子は教科書めいておきますので、どこかでやはり教育の分野にご協力をいただくということ、ぜひ都のほうでご検討いただけないかと思います。

2020 年に大学生になっている、ですから、ボランティアに参加できる 4 年後になるというのは、今、中学 3 年生、高校 1 年生ですので、彼らに今のうちに言うのと、突然はやり病のようにオリンピック始まったのでボランティアをやろうというのでは、全然多分意味が違いますし、我々も含めてサービス業の現場というのはなり手が少ないということに直面しています。

それはやっぱり学校教育の中からそのサービス業という選択肢があるんだということ、あまり教科書には書いておりませんので、サービス産業でおもてなしをしようと思ってくれる子どもたちをたくさんつくることは、これはサービス業全体の今の課題だと思っていますので、何らかの方法で、プラン全てをとということではないと思いますけども、観光の産業の裾野の広さであったり、1964 年のオリンピックでは東京は何を得て、今度は何をやるのかというふうなお話でも構いませんので、やっぱり学校教育の中で少し子どもたちにこの話をしていただけるような場があればよろしいかと思っていますので、ご検討いただければというふうに思います。

【安島会長】

どうもありがとうございます。

いろいろご指摘をいただきましたが、「四季島」大人気のようですね。

それに絡んでお話いただいたハイエンドな層に対しての需要の喚起と言いますか、ラグジュアリーな消費という部分にも、ぜひ積極的にアプローチしていきたいというご指摘だったのかと思います。

もう一つは、オリ・パラを支えるホストとしての都民ということで、オリンピックの誘致もおもてなしを売り物に成功したということもあると思いますが、それを具体的な形でどう展開していくのかということ、ぜひこれから考えて

いかなければならないと思っております。

どうもありがとうございました。

ほかに何かございますか。

【坂本観光部長】

すいません、ちょっと事務局のほうから少しだけ補足をと。

高橋委員のほうから頂戴した意見で、観光施策をいろんな方々に幅広くお伝えするにはどうしたらいいかという問題提起だったと思うんですが、今回、皆様方のお手元に冒頭 B6 判の小冊子がございますというふうに申しあげました。

大きな判の「PRIME 観光都市・東京」を、かなりわかりやすい形にして薄めにして、表現も相当平易にしてつくってございます。

4 月の末に公表した「Tokyo Tokyo」というアイコンも入れてあるんですけども、これが一応、最初の第一歩ということで、普及啓発に乗り出す最初の事業所様宛の小冊子という形にしてございます。

ただ、都民一般の方というのが、こういうものを読んで、どう受け止められるかというのは、ちょっとまたこれはいろいろと検討していかないといけないと思っておりますので、そういった部分も含めて広く普及啓発のやり方、検討を進めていきたいと思っておりますので、よろしくご指導をいただければと思います。

以上でございます。

【安島会長】

はい、ありがとうございました。

ほかによろしいでしょうか。

よろしいですか。

それでは、どうもありがとうございました。

皆様からいろんな意見をいただいてまいりましたが、私もちょっと一人、委員の一人として、少し意見を申し上げたいと思います。

それは一つ、舟運についてでございます。

前のプランの 2017 でも、水辺の観光は東京観光の一つのフロンティアとして取り上げられております。

大変都も国もそれから各区も熱心に取り組まれておられまして、私も都の試験運行に乗せていただいて、秋葉原の万世橋から羽田まで船旅をさせていただきました。

ただ、いろいろな各区が船着き場をうまく使って、拠点の整備はいろんなところで進んでおります。しかし、区を超えて、船を利用しようとする、船着き場が利用しにくいというような事情がございます。区あるいは都、それと区、それから河川の管轄のところと、それから港湾の部分とがございまして、なか

なかこの船着き場が思うように利用できない状況にあります。

利用のできる船着き場を増やすには、防災船着き場とかを開放していただくのが一番効率的だとは思いますが、防災上のこと等もございますので、難しいこともあるかと思えます。

ただ、そういうものの可能性について、区、都とかが、区を超えて、あるいは河川と港湾を超えて、船の運用ができる仕組みづくり等をご検討いただけると、大変、水辺の利用が活性化するのかなというふうに思っております。

山崎区長のところの江東区の川テラスのようなすばらしい拠点ができまして、都知事さんもいらしたそうでございますが、あそこに船で行こうと思うと難しいわけでございます。

水上タクシーだとか、川辺のライトアップとか、そういうものを楽しむためには船が非常に有効なのかなと思っておりますので、ぜひ駅と、川の駅、港、船着き場、これがいろんなところで使えるように、ぜひご検討をいただきたいと思っております。

最後に、ちょっと私から一つ付け加えさせていただきました。

それでは、審議についてはこのあたりで終わらせていただきたいと思えます。事務局より何かございますでしょうか。

【坂本観光部長】

皆さん、どうもありがとうございます。

次回以降でございますが、先ほど来、ご説明を差し上げたとおり、観光の実行プランの2018の中間のまとめが策定を予定されております11月ごろ、この時期に開催をしまして、改めて、それまでの間はプランの策定状況を委員の皆様へ適宜ご報告をさせていただくという形をとりながら、ご助言を頂戴できればと考えてございます。

今、11月ごろと申し上げましたけれども、具体的な日程については若干前後あるかとは思いますが、これから調整をさせていただきたいと考えているところでございますので、何とぞ引き続きよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

【安島会長】

それでは、最後に藤田局長から一言お願いをいたします。

【藤田産業労働局長】

産業労働局長の藤田でございます。

各委員の皆様からは、本当にお忙しいところ、本日、ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

また、貴重なご意見、それぞれの各事業、それからお立場からの多角的、かつ具体的なご意見をきめ細かくいただきました。私ども、観光と産業、これは局の中でも、いろいろ今、連携をしながら、産業と労働という、そういう意味

では働き手のところも確保も含めて、いろいろやっているところではございます。

また、今日はこちらのほうにも、庁内の関係各局の担当者も出席をさせていただいておりますので、都庁内の連携も、先ほどのいろんな取り組みに関しまして、必要な連携をしていかなければいけないと思っておりますし、また、山崎区長から区市町村との連携、それから、きめ細かくいろいろな意見を聞いていただきたいというようなことがございましたので、さらに連携をしていきたいと思っておりますし、さらには、観光関連事業者だけではなく、都民ということで、いかにして、このおもてなしの機運をやっていくかというようなことで、観光を切り口として、総合的な取り組み、また、オリンピック・パラリンピックに向けたおもてなしの機運醸成なんていうことも含めて、都庁全体としてやっていかなければいけないというようなことを大変強く感じました。

いただきましたご意見を参考にさせていただきますして、今後、観光の実行プランの策定に精力的に取り組んでまいります。

今後とも各委員の先生方には、ご指導、ご助言のほうをよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

本日はありがとうございました。

【安島会長】

以上をもちまして、本日の東京都観光事業審議会を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

午前 11 時 40 分閉会